

第77回麻布獣医学会 一般講演 12

# 「ネコの飼い方教室」参加者の意識調査について

—アンケート調査結果から—

本田 三緒子

東京都動物愛護相談センター多摩支所

## 1 はじめに

当所では、ネコの適正飼養を推進するため平成11年度から「ネコの飼い方教室」を実施している。この講習では、ネコについて科学的な視点でとらえ習性や行動について解説し、室内飼養におけるメリットを強調し屋外飼養のデメリットについてガイダンスしている。

平成13年、東京都動物保護管理審議会答申に基づき、ネコの適正飼育推進策の一環として「飼い主のいないネコとの共生モデルプラン」都内2ヶ所がスタートした。しかしながら、依然としてネコに関する苦情や相談が市町村、保健所に寄せられているため「ネコの飼い方教室」の参加者を対象に飼育状況に関するアンケート調査を行ったので報告する。

## 2 実施方法

- ・ 狛江調布保健所主催：集合住宅K自治会ネコの飼い方教室 平成13年3月
- ・ 立川市主催市民自主企画講座：犬とネコの適正飼養講習会 平成13年10月
- ・ 多摩小平保健所、西東京市主催：ネコの飼い方教室 平成14年1月

それぞれ一時間半の講習と15～30分間の質疑応答時間を設けた。合計35名について調査票にて解答を得た。

## 3 結果

- (1) 解答者 女性：33名，男性：2名
- (2) 年齢別構成 60代(13名)，50代(7名)，40代と70代(5名)，20代未満(3名)
- (3) 職業別分類 主婦(26名)，学生，自営業，会

社員(2名)，3名が未記入

### (4) 住まいの形態と家族構成

一戸建て持ち家：21件，一戸建て借家：2件，集合住宅(分譲)：8件，集合住宅(賃貸)：4件，夫婦のみ：22件，夫婦と子供：11件，単身者：2件

### (5) ネコの飼育経験の有無

ある：23名(10名が初めて)，未解答2名

### (6) 飼いネコに関して

35世帯のネコの飼育頭数は、合計91頭でありその内訳は以下のとおり

<性別>おすネコ：1頭，去勢おす：32頭，めすネコ：2頭，不妊手術済みめす：54頭。

<年齢別>1～5歳：13頭，6～10歳：6頭，11～15歳：7頭，15歳以上：1頭，1歳未満：4頭，途中から飼い始めたため不明：60頭。

<入手先>拾った：17件，知人から：6件，ペットショップ：2件，動物病院，雑誌の情報，動物保護相談センターから：それぞれ1件

<ネコの飼育環境>完全室内飼い：20件，室内外を自由に入出入り：9件，屋外が主体：2件，未解答：4件

<ネコの世話を主にする人>妻：19件，夫婦：3件，子供，単身者である自分：2件，夫：1件，妻と祖父母：4件，未解答：4件

<ネコのトイレ砂の素材は>紙砂：11件，木材チップ等：8件，鉱物砂：7件，トイレットシート：8件，未解答：3件

<かかりつけの動物病院で定期的に健康診断を受診させていますか>はい：20件，いいえ：11件，未解答：4件

<ネコを飼って困ったことは>(複数解答)

爪とぎ：9件，トイレのしつけ：7件，抜け毛：4件，咬みつき：4件，鳴き声：3件，近所から苦情：3件，ケガと病気ばかり：2件，盗み食い，大切な植物をかじる等

＜ネコを飼って良かったこと＞（複数解答）

家族の会話が増えた：19件，家庭が明るくなった：16件，他の動物にも親しみがもてる：12件，友人が増えた：9件，ネコがそばにいただけで心が和む，家族が動物好きになった等

#### 4 考察およびまとめ

- (1) 不妊去勢手術の実施率は，95%であり必要性が十分理解されている。ネコを飼い始めたキッカケ及び入手先は，「拾った」が最多でありネコに関する正しい情報が不足したまま飼い始めてしまう状況がよく現れている。
- (2) 室内飼養は，多摩地区においても57%であり室内飼養が浸透し始めていることが推察される。平成11年度東京都の調査結果52%よりわずかに高く，受講者の意識の高さがうかがわれる。工夫して室内飼養に取り組む姿勢も評価できる。
- (3) 行政に対する要望は，不妊去勢手術の普及推進（できれば補助）を含めた飼い主全体のマナーアップ。住民に対しては，ネコという動物への正しい理解と対応方法の広報啓発が必要であると，強い要望があることが判った。このような状況を改善し，より良い地域環境を実現していくためには自ら適正飼養できる頭数を限定すること，それ以外

のネコに関して地域の問題であることをアピールし，合意と協力を獲得していくことが必要である。地域のネコについては，行政から費用補助を受けられる，働きかけをする。また，先進地域での取り組み状況を学習し，ノウ，ハウ継続しつつ地域特性にあった活動を展開するなど住民側の努力が不可欠である。

地域住民に対して，また特にネコの飼い主に対して適正飼養を進めるために更なる情報提供が必要である。当センターでは，機会あるごとに市町村が企画する適正飼養講習会事業等を支援し，地域住民とネコとのより良い共生関係を実現していきたい。

また，この調査で自分のネコは室内で飼い，それ以外に数頭のネコを外飼いと称して（不妊去勢手術済み）給餌するケースが多いことが判明した。こうした中には，餌を与えるだけや，繁殖制限をするだけでは問題解決できないことを理解しつつも飼養して，糞尿に関する苦情で地域でもめている例がある。飼い主のいないネコについては，環境や住民合意といった点から許容される頭数に制限があることを強調していくことが大切である。行政から，不妊去勢手術の費用補助を受けるだけでは問題が解決しないこと。ネコの飼い主に対して，終生飼養に関する責任を明確にすることや，習性，行動についても講習を行うこと，更なる室内飼養を推進することである。